

礼拝メッセージ(2021年6月20日 父の日) ベン牧師

「力を知る」 エフェソの信徒への手紙 1:19-21

今日の箇所は、先週のパウロの祈りの続きです。クリスチャンであるなら皆、神様が大きな力を持って働いてくださることは頭ではわかっているでしょう。しかし、その神の力が、今の私の人生の中に働いており、私を導き支えてくださるのだということをどれだけ実感しているのでしょうか。パウロは、その力がどれだけ大きなものかを知ることができるように、知恵と啓示の霊、すなわち、聖霊が臨んでくださるようにと祈っているのです。

先週もお話ししましたように、やがて与えられる御国の祝福も、今私たちのうちに働いてくださっている神の力も、聖霊抜きには知ることはできません。

どんなに聖書の知識があり、神が海を分け、死人を生き返らせ、五千人を養い、水の上を歩かれたということを知っても、今日の私の必要を満たしてくださる神の力を信じることができないということが往々にしてあるのです。力強い奇跡を行われる神の力は、今この私のうちに働いてくださり、私の人生の道を開き、私を癒し、養い、導いてくださるのです。

エフェソの町には、アルテミス神殿があって、町は富み栄えていました。反対にエフェソの教会は迫害や困難の中に置かれ、信徒の多くは奴隷という身分でした。しかし、エフェソの教会にあって、偶像の神殿にはないものがあるのです。それは、生ける全能の神が共にいてくださるということです。彼らは苦しい立場にあり、日々の生活においても心配することが多くあったでしょう。しかし彼らは、**自分たちの生活の中に主は働いてくださることを信じていました**。しかも、その力というのは、21節にあるように、「キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、勢力、主権の上におかれた」力なのです。

この素晴らしい恵みが与えられていることを知るために、知恵と啓示の霊を与えてくださるようにとパウロは切に祈っているのです。そのことがわかれば、何が起ころうと、どこに行こうと、心配する必要などなくなります。

確かに、私たちが願い、思い描いている人生を、その通りに歩める人は少ないでしょう。

パウロ自身も、伝道の道を何度も神によって閉ざされました。しかし、別の道を神様が用意してくださり、彼はそこでの伝道で多くの実を結びました。

私たちの人生でも、願う道が閉ざされたり、物事が思うように進んでいかなかったりすることはあります。しかし、門が閉ざされても、門が開かれても、神の力に信頼していくなら、失望も心配もいらないのです。門が閉ざされたということは、神が別の道、それも最善の道を用意しておられるということです。落ち込む必要はないのです。もちろん、閉ざされた門は、私が行きたいと願っていた道かもしれないかもしれません。しかし、**神の導きに従うなら**、やがて振り返った時に、神の祝福を見ることになるのです。

神の絶大な力に信頼していく時、どんなに弱く欠けだらけの私であっても、十字架によって罪赦され神の子どもとされた私を、神は決して見捨てることはなさいません。

このお方の素晴らしさに目が留まるように、神の力を知ることができるようにというのが、今日の祈りです。

やがて与えられる恵みも素晴らしいですが、今、私たちに働いてくださっている神の力も絶大なものです。クリスチャンは、地上で祝福をいただき、やがて天においても祝福を受ける、**という**、二重の祝福を受けているのです。感謝し、主に信頼して前進していきましょう。